

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173000348		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・上福岡		
所在地	埼玉県ふじみ野市上福岡5-5-4		
自己評価作成日	平成29年 9月22日	評価結果市町村受理日	平成30年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅から徒歩5分の立地条件を活かし、利用者と一緒に日常的に駅前スーパーや公民館を利用しています。公民館内の図書館で図書の貸し出しを受けたり、絵画や写真の展示会や、地下のホールでのコンサートや踊りの練習なども見学させてもらうなど、地域との交流も盛んです。夏には自治会の盆踊り大会に参加したり、ご家族と共に上福岡七夕祭り見学にも出掛けています。毎月1回の「お楽しみ昼食会」ではリクエストにお応えし、近隣商店から出前を取るなど、「食」を楽しんでいます。また、音楽ボランティアの受け入れも毎月開催し、音楽に触れ合う機会も設けています。介護支援ボランティアの受け入れも盛んで、将棋・オセロ・トランプやかるた取り、雨の日はカラオケも楽しんでいます。季節に応じた千切り絵や習字レク、脳トレドリルなど、個々のADLに合ったレクを提供し、生きがいや生活のなかで張り合いを感じられる笑顔あふれるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業理念はシンプルにまとめ、職員間でいつでも、どこでも直ぐに確認が出来るようにしている。まずは実現可能な事から取り組むことで、職員が達成感を共有できるようにしている。職員の達成感につながる環境が、お互いを思う輪となり波及し、職員間のみならず利用者、その家族に、そして地域住民へ自然に伝わっている。そして、事業所の努力だけでは不可能なことも、家族、地域住民の力を借りることにより、利用者が望む暮らしに繋がられることもある。家族、地域住民、職員間の距離が近くなったことにより、備品の寄付や、行事への参加等、利用者が施設ではなく、より以前の自宅での生活環境に近い生活と感ずることが出来るようになってきている。困ったときはお互い様の精神が随所にみられ、人感情、信頼感溢れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が「笑顔と思いやり」の理念に基づき、理念を共有することで各自が心のこもった温かいケアに努めている。職員・利用者共に笑顔あふれる日々を過ごしている	職員会議において、誰が読んでも分かりやすい言葉を選んだ。日々研鑽を重ね、レベルアップにつなげている。職員間で共有する為、出勤時に理念を確認してから勤務につくように徹底している。	理念は、状況に応じて変えても良いと考えている。方向性を検討し、共に生き、支え合う中で、サービスの質がさらに向上することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際、近隣の方々から庭の花や果実を頂いたり、排泄用品の寄付を頂いた。また、商店主と挨拶を交わしたり、床屋や商店の利用をし、地域と交流をしている	地域で行われる行事、夏祭り等には、職員もボランティアで参加し、地域を盛り上げるために貢献している。ゴミ捨て場清掃から散歩道での挨拶に至るまで、垣根越しの付き合い交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献	地域の方から認知症の家族への支援のあり方を相談され、地域包括や居宅介護支援事業所を紹介し、実際に介護サービス利用に繋がられた事例もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の高齢福祉課、保護課、社協、地域包括、民生委員、自治会、介護相談員、家族など、多数の方々の参加があり、事業所の取り組みや実績報告をし、意見交換をしている	運営状況を把握してもらう為、狭いながらも事業所内で運営推進会議を実施している。開催案内は、お礼・報告も兼ねて手渡しし、そこで得られた意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当宛てに毎月の利用状況を報告している。(入・退居の報告や、待機状況、要介護度)介護相談員との交流でサービスの取り組みを伝え、協力関係を築いている	事業所連絡会等において、地域の情報を取り入れている。一方で、市役所からの依頼を受け、パネル展への出展を行った。「認知症理解」「シニアセラピー」等の理解を深めるための情報発信を積極的に実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月職員会議で資料を配布したり、積極的に研修に参加し「身体拘束をしない・させない」を常に意識して日々のケアに取り組んでいる	研修は積極的に参加している。身体拘束委員会と高齢者虐待防止委員会を月に一度、同時に開催している。「ちょっと待って」の声掛けには、「～した後ならできます」等、今できない理由と何時ならできるかを必ず添えて、相手本位で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置。外部の虐待防止研修にも積極的に参加し、内容は職員会議で発表伝達している。ストレスを溜めないよう心両面でリフレッシュを図る工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護や成年後見人について学んでいる。成年後見人が付いている方の受け入れ実績があり、その際に関係者との話し合いのもと、理解を深める事ができた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、項目毎にきちんと説明を行っており、入居後も家族からの質問には随時答えている。料金改定の際は家族会での説明も行い、理解・納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口をホーム内に、お客様相談窓口を本社に設け対応している。要望・意見を取り入れ反映できるよう家族会や会議等で話し合いを行っている	家族面会時には意見交換を行い、みんなの家便り等にて発信している。家族からの要望等は、職員間で情報共有できるようにし、話し合いをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議の場で、職員各自が自由に意見を出し合い、ケアや業務向上について提案し、意見交換することでより良いケアに反映させている	職員からの提案は大事と考えている。皆で話し合い「良い」と決めたことについては直ぐに取り組み、希望するケアの在り方、事業所の在り方等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の能力や特性を活かした役割や係りを任せている。職員各自がやりがいや向上心を持って働けるよう、声掛けやアドバイスをするなど職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量や勤務経験を把握したうえで、外部研修参加の機会を設けている。また、職員が自ら参加したい研修を見つけて参加し、自己研磨に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県社協の「介護職員施設間交流研修」に参加。同業者と交流し、その際のネットワークを活かし、秋以降に相互職場訪問を実施する予定となっている(2か所訪問)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで、出来る限り本人の状態や状況を探り、不安無く早くホームの生活に馴染めるよう信頼関係を築く努力をし、それぞれに添ったケアに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、現在困っている事や要望、不安などをゆっくり時間をかけて家族から聞き取りをすることで、安心してサービスを受けて頂けるよう信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以外のサービスを必要とするケースでも、そのサービスが利用できるよう、居宅支援事業所や地域包括支援センターを紹介し、サービスに繋がられた実績もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が利用者の世話をしたり、日常の中での得意分野(家事裁縫など)を發揮できるような機会を設ける事で利用者同士が支え合い、良い関係作りができています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に参加できる音楽会や買い物イベントを実施したり、一緒に外出や食事が出来る機会を設けている。特に納涼祭は、ほぼ全家族が参加し、家族との絆を深めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた商店や友人関係が途切れないよう、馴染みの場所や店の利用を続けている。美容師の友人が訪問時にヘアカットをされるなど生活の場での支援も継続されている	家族から了解を得られれば、友人との買い物、外出も可能である。手紙、絵手紙、電話連絡も可能であり、日頃の付き合いから事業所の行事参加へとつなげ、人と人との関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や個性に配慮した席の配置や見直しを行っている。利用者が孤立しないよう、ゲームやレク、音楽会や食事会などでは円座になって参加できるような取組みもしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設を訪問した際は、必要に応じて本人の状況を家族に伝えている。退居されてから1年以上過ぎている家族から身内の介護の相談を受け、支援を続けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩やレクを含め、生活全般において可能な限り本人の意向を尊重している。苦手な事もある為、無理強いはせず、困難な場合は意向を伺いながら支援を行っている	一人ひとりに、今日は「何をしたいか」「どう過ごすか」を確認し、利用者個々に合わせた過ごし方を支援している。出来る事については、出来ない利用者に教え合う取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との会話の中から生活歴や生活習慣を把握している。近隣スーパーや商店での買い物に同行するなど、馴染みの暮らしの継続を大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の大半を利用者と過ごし、その時々様子を記録に残し職員全員で情報を共有している。心身状態の変化等は個人申送りノートで活用で状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や看護師、家族・本人と課題を話し合い、情報共有したうえで職員会議等でアイデアを出し合いそれを反映させた介護計画書を作成している。3ヶ月毎にモニタリングも行っている	3か月のモニタリング期間を経て、アセスメントを実施している。質問には、職員一人ひとりが応えられるようにし、利用者個々の出来る事、出来ない事を理解して、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアを実践し、内容を生活記録に反映・記録している。状態の変化や会話も記録し、会議の場でカンファレンスを行いケアプランの見直しや情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の希望に応じてシニアセラピーを実施している。併設されているデイサービスのレクや行事に参加するなど、柔軟な支援やサービスの実施に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徒歩5分の公民館内の図書館で図書の貸し出しを受けている。納涼祭実施の際は、社協から車椅子3台の貸し出しを受け、長い距離を歩けない利用者も安心して参加することが出来た		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療により身体状況の把握や内服薬の調整をしている。診療の内容についてはみんなの家便りで家族へ情報伝達している。急な体調の変化は臨時的診療も受けられている	月に2回、歯科、内科の訪問診療が受けられ、緊急時においては、24時間内科医と連絡が取れる。服薬や救急搬送等の指示が受けられ、利用者の適切な医療支援につながる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携訪問看護師による週1回の訪問時、利用者の健康状態や気付きについて相談している。訪問時以外も連絡ノートを活用し、情報を共有することで適切な受診などを支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には既往歴や家族構成など必要な情報を提供し、退院時には病院から看護・介護に関する情報提供を受けている。医療連携室の相談員と連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に、重度化した場合の対応に係る指針を説明している。その際に家族から終末期のあり方についての話し合いを行ったうえで事業所でできることの説明も行っている	事業所での看取り実績がある。看取りに関する家族の意向を確認し、文書に記している。医療との連携に向けた取り組みの研修を実施。事業所・医療関係者、家族とのチームケアが行えるような取り組みに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや、緊急連絡網を整備し、昼夜を問わず駆け付けられる体制を整えている。医療機関と連携し、初期対応の実戦力を身につける努力をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	埼玉県社協主催の「災害について考える集い」に参加。NPOとの連携や自治体連携と災害時の対応について学んだ。地域の消防署と連携し、高齢者の避難誘導について訓練時に学んだ	昼夜の地域防犯パトロールの協力体制がある。公民館が避難場所であり、散歩しながら利用者と立ち寄り確認している。緊急連絡網に入れてもらい、災害発生時の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が傷つくような軽はずみの言動を避け、入浴や排泄時にはプライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。脱衣所では更衣が見えない工夫もしている	個人の情報はファイルに挟み書庫で管理している。書庫扉の硝子にはフィルムを貼り、外から中身が見えない。ボランティアとは、個人情報保護の誓約書を取り交わし、利用者のプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に思いや希望を話せるような環境や雰囲気作りを工夫している。自己決定ができるよう、いくつかの選択肢を提供するなどの工夫もしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩時には行きたい場所、レクの際はやりたい事の希望を伺い、個々のペースに合わせた支援をしている。掃除や入浴の時間をずらし、外出を実現させるなど利用者本位に考え支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分に合わせて着たい服を選ぶ手伝いをしたり、化粧品や服を買いに行くなどのおしゃれを楽しんでいる。マニキュアの色も自分で選ばれ、爪にもおしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のリクエストに応じた「昼食会」を企画・開催している。おやつ作りで一緒にキッチンに立ち調理を楽しんだり、後片付けを共に行うなど、様々な面で「食」を楽しんでいる	毎月1回のお楽しみ昼食会と季節ごとのメニューを企画。外部からの受注においては、栄養もしっかりと計算し、彩りも良い。利用者には食器ふき等の役割持ってもらい、職員と会話を楽しみながら実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事摂取量は個々に記録し、一日トータルでバランスよく摂取できるよう支援している。栄養面では往診医と相談したうえで栄養補助飲料を処方してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や歯科衛生士の指導と指示を下に、一人一人の口腔状態に応じて毎食後のケアを行っている。往診記録は職員全員で回覧し、内容を把握したうえでのケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを把握し誘導や介助を行う事で失敗の軽減に努めている。コールボタンの活用で車椅子利用者に対するケアと介助を行っている	排泄チェック表を確認して、トイレ誘導のタイミングを予測している。「ごめんなさい」と言わせないように、利用者の気持ちに配慮し、適切な排泄支援になるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きを促すよう、毎日体操をしている。往診医や医療連携看護師との連携で便秘薬の処方や下剤の量の調整を行っている。排泄時、腹部のマッサージ等も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方が多いので、体調に考慮しつつゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。入浴剤の香りや色も楽しんでいる。必要に応じてリフト対応もしている	天候、行事等の状況で入浴時間を調整している。利用者の希望を聞いた上で、時間を変更して入ることも可能である。入浴を面倒で嫌がる利用者には、丁寧な対応をし、入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠時間までテレビや読書を楽しんでいる。室内の温度や湿度調整をし、安眠できるよう配慮をしている。不安や不眠の訴え時には傾聴し、不安なく休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、薬剤の変更時は個別のノートに記入し職員全員が把握できるよう努めている。服薬説明書をファイルし、副作用や要領について閲覧できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクで作成した作品を廊下や居室に掲示し、達成感や張り合いを感じている。日々の生活の中で役割分担し、生きがいのある暮らしが送れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やボランティアの協力により、毎年地域の祭り見学に出掛けている。買い物希望がある際には、職員が付添い出かけている。家族と定期的に食事や買い物にも出掛けている	買い物を楽しめる機会を見つけ、できるだけ出られるよう支援をしている。外出に遠慮がちな利用者には、家族の協力得て意向を確認した。希望があれば、家族と外食を楽しむように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつや日用品の買い物希望時は職員が付添い出かけている。レジでの支払いを本人が行えるよう見守りと支援を行っている。買い物イベントも定期的に開催している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に好きな時に電話を掛けたり受けられるよう支援している。遠方の親戚と手紙のやり取りをしたり、絵手紙や年賀状のやり取りを楽しんでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を季節感のある作品や季節の花で飾るなど居心地の良い空間作りを工夫している。昼夜を問わず不安や混乱を招くような事がないよう、音や採光、室温に配慮している	装飾は、季節感のあるものを心掛け、一か所に集中しないよう、広く実施している。職員は、掃除機、利用者にはモップかけの役割を持ってもらっている。障害者雇用の枠で、床磨きを実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	概ね食事時間は決まっているが、それ以外の時間は好きな場所で過ごせるよう、ソファや椅子を配置している。窓側に設置した席でオセロゲームや将棋を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や手作りの装飾品の他、好きなタレントのポスターが飾られている。本人が家族に相談し、小物入れや衣装ハンガー、本棚も設置され居心地よく過ごされている	入所時には、家族と相談して、使い慣れ馴染みのあるものを持ってきてもらい、過ごしやすい環境造りの支援をしている。新しい環境に、気持ちよく、不安なく過ごせるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に顔写真付きのネームプレートを飾ったり、トイレのドアには大きく貼り紙をするなど、迷わず行ける工夫をしている。廊下には物を置かず車椅子自走者の動線確保をしている		